



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	C.S.Lewis and Christian Postmodernism : Word, Image, and Beyond [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	湯浅, 恭子
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11507号
Issue Date	2014-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57179
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Kyoko_Yuasa_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：湯浅 恭子

	主査	教 授	瀬名波栄潤
審査委員	副査	教 授	竹内 康浩
	副査	教 授	高橋 英光

学位論文題名

C. S. Lewis and Christian Postmodernism: Word, Image, and Beyond.

(C. S. ルイスとクリスチャン・ポストモダニズム：ワードとイメージを超える世界)

審査経緯は以下のとおりである。

平成 26 年 4 月 11 日	審査委員会発足
平成 26 年 4 月 11 日	第 1 回審査委員会 論文の配付と審査日程の調整
平成 26 年 6 月 11 日	第 2 回審査委員会 論文内容の検討と問題点の整理
平成 26 年 6 月 20 日	口頭試問の実施
平成 26 年 6 月 20 日	第 3 回審査委員会 口頭試問の内容検討と評価、学位授与の判定
平成 26 年 6 月 25 日	第 4 回審査委員会 審査結果報告書（案）の検討と確認（1）
平成 26 年 7 月 4 日	第 5 回審査委員会 審査結果報告書（案）の検討と確認（2）
平成 26 年 7 月 8 日	第 6 回審査委員会 審査結果報告書の確定

審査要旨

本学位申請論文は、20 世紀の英国人作家 C. S. ルイス（Clive Staples Lewis）の文学理論と作品を取り上げ、彼独自の理念と実践を照合する文学研究の手法を用いている。その結果、ルイスはクリスチャン・ポストモダニストであるとし、この新たな観点から、彼の作品はワードとイメージを超える超絶的な世界を描いているポストモダニズム作品であると再評価している。

本論文はイントロダクション、本論 5 章、そして結論からなる。まずイントロダクションで、本論での分析を概観する。ルイスをクリスチャン・ポストモダニズムの先駆者と位置づけ、ルイス作品は言語・理性と想像物・心象の衝突と調和から人間の解釈を超えた世界を形成していることと、大きな物語を脱構築する一般的なポストモダニズム文学とは異なり小さな多様な物語が最終的には大きな物語（神の物語）へと変換されていくことに特徴があるとしている。

第一章では、文学批評家としてのルイスに注目する。まずキリスト教文学の視点からモダニズムとポストモダニズムの特徴を検証し、それに対する批評家としてのルイスのポストモダニズム的思想を紹介している。

第二章では、ルイスをクリスチャン・ポストモダニズム文学作家として位置づけ、その特徴を概観している。本論文執筆者はルイスにも英国ポストモダニズム文学と同じ傾向が見られるとし、モダニズム文学への批判を通して、古典と現代の歴史的関係性や、言語の形態（ポイエマ）と意味（ロゴス）

の関連性の希薄化に危機感を示している、としている。

第三章から第五章は、ルイスの主要作品を個別に精査し、クリスチャン・ポストモダニズム作品として検証している。

第三章では、小説『いまわしき砦の戦い』を扱う。本作品は魔法使いマーリンが眠る「閉じられた庭」の破壊と再創造の物語として検証し、現代社会の物質主義を疑問視する作者ルイスが、ポストモダニズム的文学手法を利用し、作者と読者の共同作業を文学に取り戻そうとした作品であるとする。

第四章では、現代社会が忘れた記憶の回復をポストモダニズム的文学手法で描いた作品『朝開き丸東の海へ』を分析している。この作品は、地理的な方角の＜東＞を中心に読まれることが多いが、しかし複数の主人公たちの各航路が東西に限定されているわけではなく、それぞれに異なる「航海図」の途上の物語であるとする。

第五章では、ルイス最後の小説『顔をもつまで』における神話の書き直しや読み直しといったポストモダニズム的手法を分析している。作中、女主人公オリュアルが、手紙を書き直し、読み直していく過程で、新たな世界が創造される。

結論では、本申請論文が 20 世紀英文学史の中でルイスの思想と作品を再評価・再配置する試みであると確認している。ルイス作品はポストモダニズム期とは呼び難い 1940 年年代から 1950 年代にかけて発表されたため、ルイスの文学的地位は曖昧なままにされてきた。本論文は、ルイス作品をポストモダニズムの先駆的作品であると位置づけ、ルイス研究に新たな領域を提供する研究であると括っている。

審査結果

本申請論文は、ルイスをクリスチャン・ポストモダニズムの思想家並びに作家として再定義・再評価している。モダニズム化したキリスト教に反論し、ポストモダニズムの視点からキリスト教を新しく位置づけた思想家ルイスに、従来の児童文学作家としてではなく、ワードとイメージを超えた世界を創造したクリスチャン・ポストモダニズム作家としての新たな地位を付与していると言える。

口述試問では、多くの先行研究資料やルイスの散文資料を収集したという点において大いに評価された。が、それだけに、ルイスのクリスチャン・ポストモダニズムの理論と実践を立証するためには、思想と作品をより明確に分離し議論することが望ましく、本論文は構成と議論の所々に難があることが指摘された。しかしながら、それらは今後の研究課題としての氏への期待を示すものであり、本申請論文は学位を得るに十分な水準に達していると、本審査委員会は判断した。したがって、申請論文の慎重な審査と口頭試問の結果に基づき、全員一致して湯浅恭子氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であると認定する。